

カナダのファッション

シンプルさに遊びを加味

カルダン、サンローラン……そして今、カナダのアルフレッド・サンが、ファッション界の檣舞台に登場した。

米誌「サックス・ファイブス・アベニュー」はアメリカで最も人気のある新進デザイナー十人の筆頭にサンを挙げ、「ヴォーグ」誌も好んで彼のデザインを載せている。「サン」のスポーツウエアはこれまで見た中で最もビューティフルだ」と評する服飾専門家もいる。

アルフレッド・サンはパリのエコール・ド・ラ・サンジカル・ド・ラ・クチュールを首席で卒業し、現在トロントやニューヨークを拠点に年商二十五億円の活躍ぶりだ。

サンのもットーは、「きわめてシンプル



セルジュ・エ・レアルの作品

ルで、体にフィットし、単に見た目に美しいというのではなく、機能性に富む服を作ることにある。彼は言う。

「私は、スタジオでデザインし、美人にだけ着てもらおうというのではなく、ブティックで実際に普通のご婦人方と会い、

一緒に考え、実際に着てもらって反応を見る、というやり方でやってきた。」

見た目の美しさと同時に、着心地を重視するサンに、「着心地のいいオートクチュール」、「手の届くハイファッション」との評価が高まっている。

カナダのファッションの特徴は、第一に、北米の女性に不可欠なシンプルさを基調に、ヨーロッパ風の「遊び心」を合わせ持っている点にある。

クラシック派のレオ・シュバリエ（カナダ・デザイン界の王と言われている）、ジョン・ウォーデン（パーフェクト・プロポジションのレイニス・ウエアで有名）、ミシェル・ロビシヨール（カナダ・デザイナー協会の初代会長）、セルジュとレアルのコンビ（モントリオールのハイファッションを代表）。

「遊び」派のウエイン・クラーク（豪華なカクテル・ドレスを得意とする）、マリリン・ブルックス（「遊び」派の旗手色と素材のバイオニアを自認）。

ビジネス着・カジュアル派のフランク・スパツイアーニ、マーガレット・ゴッドフリー（レザーとスエードにすぐれたタッチを發揮）、カジュアル派のパット・マクドナフ（ビートルズやダイアナ・

リグの映画衣装をデザイン）——など多くのデザイナーが活躍し、国際的な賞も数多く取っている。

お国柄、特に強いのが冬物。四年前にユーゴスラビアで開かれた国際ファッション・フェスティバルでは、「ウールやツイード、毛皮の使い方が素晴らしい」と、カナダ勢は絶賛を浴びた。

メンズ・ウエアの分野では一九八〇年の国際服飾デザイナー協会（IACD）の賞七部門のうち、カジュアル部門でフランク・スパツイアーニ、ビジネス・スポーツ部門でサント・ガロ、フォーマル部門でビクター・ブラッジズが優勝している。シュバリエ、ロビシヨール、ウォーデ

ンはクラシックの現代化を追求、ロベール・シエルナンやガブリエル・レビはレザーやスエードを生かしたスポーツウエア、コート類に個性を發揮している。

こうしたカナダ人デザイナーの成功の理由は、品質重視にあると同時に、デザインを消費者の個別の要求に合わせるその柔軟性にある。カナダのファッション企業は比較的規模が小さく、大量生産でない所に、魅力を放っているといえる。

世界的に見れば、カナダのファッション業界はまだまだ若い。伝統ある有名店や新種素材の話題は少ないが、それでもここ二十数年の実績が、今後の発展に大きな期待を持たせてくれる。

マリリン・ブルックスの作品



アルフレッド・サン

レオ・シュバリエ